

長澤孝三先生ご講演要旨

「資料としての和刻本漢籍」

江戸時代における出版活動の興隆は、あらゆる分野で目を見張るものがあります。

我が国の学問の主流であった漢学の世界に於いても顕著な動行が見られます。

「和刻本」とは、我が国で日本人が出版した書物、「漢籍」とは、中国人が著述・編纂した書物、即ち「和刻本漢籍」とは、「中国人の著述物を、我が国において日本人の手によって刊行された書物」と定義することが出来ます。

初期の和刻本は、中国の書物を出来るだけ彷彿させるものが求められました。が、次第に日本人が中国語の書物を理解するために必要な返り点・送り仮名・縦点・断句等の要素が加味され、更に注釈や解説も加えられるようになりました。

異文化である中国語の書物を、我が国の人々が、どの様にして吸収していったか垣間見ることとしたい。